

抱負文 (取締役候補 藤原元彦)

このたび、積水ハウスへの株主提案にて取締役候補に指名されました藤原元彦と申します。

私は、現経営陣のやり方に反対し、昨年、積水ハウスを退職しました。しかし、以下の想いを実現すべく、勝呂文康・和田勇両氏の「株主提案」の趣旨に賛同します。

1. 地面師事件の全容解明と徹底した情報公開

まず 2017年6月に発覚した地面師事件の全容解明と徹底した情報開示を行います。企業の不祥事は株主を中心とするステークホルダーの皆様に対して、徹底して説明をしなければなりません。「調査報告書」の公開、新たな「第三者委員会」による徹底した再調査を実施し、あの不祥事の原因を解明し、徹底した再発防止対策を講じます。

2. コーポレートガバナンス改革の断行

つぎに経営者の恣意的な行動を抑制するための「コーポレートガバナンス改革」を実行します。取締役会を構成する取締役 11名のうち、過半数を超える7名の独立社外取締役による実効的な監視・監督の下、相互の牽制が効いた、透明性の高い統治機能を構築します。

3. 「人を大切にする愛のある会社」にする

そして積水ハウスのノウハウをさらに高める営業改革を実施します。私は約34年、積水ハウスの営業部門を経験してきました。長年の経験で培った不動産取引や営業のノウハウを全社員に伝承し、社会から求められるコンプライアンスの徹底と社会貢献意識の向上を通じて、社会の公器としての積水ハウスの一員であることを全社員が認識する環境を作ります。さらに、これまでの積水ハウスに蓄積された取引や不動産のデータ化及び全社員での共有を進め、各人のスキルアップだけでなく、企業としての合理的な投資判断・経営判断が下せる環境を整備します。

4. 社内の融和を図り「健全な積水ハウス」を取り戻す

積水ハウスでは地面師事件を契機として、現会長の阿部俊則氏らが、事案解明・責任追及を行おうとした前会長の和田勇氏を実質的に解任する騒動がありました。しかし、社員にとって重大な関心事であるにも関わらず、「地面師事件の調査結果」も「解任騒動」も、社員たちには何一つ報告されていません。不信感が募る一方で、現経営陣による恣意的と評価せざるを得ない人事が行われ、恐怖に口をつぐむ社員も少なくありませんでした。この不信感と恐怖感から社内の結束が失われ、社員は自信を失っています。これは手段を選ばない「不祥事隠蔽の結果」であり、社内に止まらず全ステークホルダーの方々からも積水ハウスに対する不信感が広がっています。いま一度原点に立ち返り、透明性と公平性が重要視され、努力と成果が評価される若い世代が未来へ希望の持

てる企業風土を再構築したいと思います。全社員が積水ハウスの一員であることを誇れる環境を取り戻すことが、私の使命であると認識しています。

積水ハウスが日本を代表するハウスメーカーとして成長を続けていくためには、もう一度社内が一丸となれる経営陣の刷新が必要です。

以上、こうした決意のもとに職務に臨む覚悟です。皆様のご支持を賜れば、幸甚に存じます。

以上